

地方独立行政法人大阪産業技術研究所  
平成30事業年度の業務実績に関する評価結果  
(案)

令和元年 月

大 阪 府

大 阪 市

## 目 次

1	地方独立行政法人大阪産業技術研究所の評価の考え方	1ページ
2	全体評価	2ページ
(1)	評価結果と判断理由	
	＜全体評価に当たって考慮した事項＞	
	① 法人の基本的な目標	
	② 平成30年度における重点的な取組	
	③ 特筆すべき取組	
	④ 課題	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3	大項目評価	
3-1-1	「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目 （中小企業の成長を支えるための多様な技術分野における技術支援）	5ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-1-2	「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目 （高度化する企業の技術・製品開発に伴走する企業支援研究の推進等）	8ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-1-3	「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目 （大阪産業を支える技術人材の育成等）	10ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-2	「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目	12ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-3	「財務内容の改善及び効率化」及び	
3-4	「その他業務運営に関する重要事項」に関する大項目	13ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	

## 1 地方独立行政法人大阪産業技術研究所の評価の考え方

知事は、地方独立行政法人大阪産業技術研究所について、「地方独立行政法人大阪産業技術研究所にかかる評価の考え方について」（平成30年6月15日施行）に基づき、大阪市長と協議の上、次のとおり平成30事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

### （評価の基本方針）

年度計画及び中期計画の進捗状況等を数値目標の達成状況、具体的な事例等で評価し、組織・業務等に関する改善すべき点や府市法人の統合によって可能となる取組等を明らかにすることにより、法人運営の質的向上及び法人がめざす「スーパー公設試」の取組等に資することとする。

### （評価の方法）

事業年度評価は、「項目別評価」と「全体評価」により行う。

「項目別評価」では、中期計画及び年度計画に基づく小項目、大項目により、法人による自己評価をもとに、業務実績に関する事実確認、法人からのヒアリングなどを通じて、年度計画に照らして進捗状況を確認するとともに、法人の自己評価の妥当性の検証と評価を行う。

「全体評価」では、項目別評価の結果等を踏まえつつ、中期計画等の進捗状況について総合的な評価を行う。

### （項目別評価の具体的方法）

項目別評価は、①法人による小項目ごとの自己評価、②知事による小項目評価、③知事による大項目評価の手順で行う。

#### ① 法人小項目自己評価

実績報告書の小項目ごとに、I～Vの5段階で自己評価を行う。

#### ② 知事小項目評価

法人の自己評価、目標設定の妥当性などを総合的に検証し、小項目ごとにI～Vの5段階による評価を行う。

#### ③ 知事大項目評価

知事における小項目評価の結果、特記事項の記載内容等を考慮し、大項目ごとの進捗状況について、S・A～Dの5段階による評価を行う。

### （全体評価の具体的方法）

知事において、項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の進捗状況について評価を行う。

## 2 全体評価

### (1) 評価結果と判断理由

- 平成30事業年度の業務実績に関する評価について、5ページ以降に示すように、「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」の1及び3、「業務運営の改善及び効率化」及び「財務内容の改善及び効率化・その他業務運営に関する重要事項」に関する4つの大項目についてはA評価（「計画どおり」進捗している）が、「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」の2に関する大項目についてはS評価（「特筆すべき進捗状況」）が妥当であると判断した。
- 特に、以下の取組を評価した。
  - ① 国際規格に対応した電波暗室を活用して大幅に利用件数を伸ばすとともに、トヨタなどの大企業が参加するオールジャパン国家プロジェクト「NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）事業」に公設試験研究機関で唯一参画するなど、「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する計画を順調に実施した。
  - ② 事業収入の確保、財務基盤の強化と効率的な予算執行等に計画的に取り組んだほか、和泉センターにおいてBCP（事業継続計画）を策定し職員訓練を実施するなど、「財務内容の改善及び効率化」、「その他業務運営に関する重要事項」等に関する計画を順調に実施した。
- 以上の大項目評価の結果に加え、3ページ以降に示す法人の基本的な目標、重点的な取組等を総合的に考慮し、全体評価は「全体として年度計画及び中期計画のとおり進捗している」とした。
- なお、法人の取組について、次の意見を付記する。
 

法人において、多様化・高度化する企業の技術課題やニーズに対応するため、技術支援、支援研究及び人材育成等に積極的に取り組んで企業の課題解決に貢献するとともに、「NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）事業」や「経済産業省戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）」などの先進的なプロジェクト研究を実施していることは、「特筆すべき進捗状況」として高く評価する。引き続き、和泉及び森之宮センターの優れた技術力や強みを融合して技術支援や研究開発に取り組み、顧客満足度の向上や新たなサービスの拡充に努め、研究開発から製造までの一気通貫の支援、利用サービスのワンストップ化など、ものづくり中小企業への支援サービスの向上に積極的に取り組んでいくことを期待する。

住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上（5～11ページ）	1	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
	2	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
	3	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
業務運営の改善及び効率化（12ページ）		S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
財務内容の改善及び効率化その他業務運営に関する重要事項（13ページ）		S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり

法人の基本的な目標、平成30年度の重点的な取組等を  
総合的に考慮して・・・

＜全体評価の評価結果＞

「全体として年度計画及び中期計画のとおり進捗している」

＜全体評価に当たって考慮した事項＞

① 法人の基本的な目標

- ・和泉及び森之宮センターの強みを活かし、得意分野に応じた研究開発から製造までの一気通貫の支援や利用サービスのワンストップ化等のサービスの向上に取り組み、多様化・高度化する技術課題、成長産業分野への参入や海外展開に取り組むものづくり中小企業を積極的に支援する。
- ・両センターのネットワークや優れた技術力を融合し、産官学連携によるオープンイノベーションの推進や成長分野の研究開発、国際基準対応に取り組み、企業の成長・発展に積極的に貢献するとともに、技術支援や研究開発のポテンシャルを高め、大阪産業の成長を牽引する知と技術の支援拠点“スーパー公設試”をめざす。
- ・顧客満足度の向上に取り組み、顧客の拡大や効率的な業務運営で得られた収益を更なる支援に投資、企業に還元する好循環を生み出す運営をめざす取組を推進する。

② 平成30年度における重点的な取組

- ・国際規格に対応した電波暗室を活用して中小企業への技術支援を行い、大幅に利用件数を伸ばすとともに、JNL A試験認定事業者登録を更新してLED電球に関する新規試験を行った。
- ・トヨタなどの大企業が参加するオールジャパンの国家プロジェクトである「NEDO 先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）事業」に公設試験研究機関で唯一参画が採択され、研究開発を推進した。
- ・融合研究チームにおいて、両センターが共同で取り組むテーマを選定し、経済産業省戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）などを実施した。
- ・第3実験棟を改修して電子ビーム積層造形装置の導入等を行う3D造形技術研究開発センターの構築方針を決定した。
- ・技術サポートセンターの更なる機能強化のため、耐候性試験機、腐食試験機等の機器を集約設置し、装置の効率的な運用による業務の効率化を図った。

③ 特筆すべき取組（（1）全体評価「評価結果と判断理由」の記載内容を除く）

- ・和泉及び森之宮センター間の電話内線化による利用者サービスの向上
- ・和泉センターにおける「法人カード」を導入した物品調達の効率化
- ・TV会議システムを活用した業務の効率化
- ・新備品管理システムの整備による設備機器の適切管理等の実施、和泉センターにおけるネットワークを活用した高圧ガスボンベ庫ガス残量監視システムの構築

④ 課題

- 公募型共同開発事業を計画どおり実施するための取組等の改善
- 法人経営や顧客サービスの向上に必要となる情報を蓄積するため、企業支援に関する顧客情報データベースの登録内容の更なる充実

(2) 評価に当たっての意見、指摘等

- 「NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）事業」に公設試験研究機関で唯一参画したことを「特筆すべき進捗状況」として高く評価する。
- 平成30年度に新たな事業を実施できなかった公募型共同開発事業を計画的に行うため、課題の整理や対策を講じるなど、取組の改善等を図ること。
- 法人経営や顧客サービスの向上のため、企業支援に関する顧客情報データベース登録内容の更なる充実を図ること。

### 3 大項目評価

#### 3-1-1 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目（中小企業の成長を支えるための多様な技術分野における技術支援）

##### (1) 評価結果と判断理由

○ 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

- ① 来所、電話、インターネット等の多様な相談を通じて企業の課題解決に取り組み、数値目標に掲げた「技術相談満足度」が目標値を上回った。また、アンケートの結果に基づく利用者サービスの向上に取り組んでおり、「多様なニーズに応える技術相談の充実」について年度計画を上回って実施していると判断した。
- ② 国際規格に対応した電波暗室を活用して大幅に利用件数を伸ばし、JNL A試験認定事業者登録を更新してLED電球に関する新規試験を行った。また、関係機関と連携して中小企業の海外展開支援に向けたセミナーの開催に取り組んでおり、「国際競争力の強化に向けた中小企業の海外展開支援」について年度計画を上回って実施していると判断した。
- ③ 基盤研究の成果と技術ノウハウを活用した様々な研究支援を組み合わせ、企業のニーズに応じた受託研究及び簡易受託研究を実施し、企業の製品開発や困難な技術的課題の解決等に取り組み、数値目標に掲げた「受託研究及び簡易受託研究実施件数」が目標値を上回っており、「多様な企業ニーズに応える受託研究の推進」について年度計画を上回って実施していると判断した。
- ④ 外部講師による特許の審査基準に関する研修会を開催し、職員の知財マインドの向上に取り組み、特許管理システムを活用して知財シーズ集を編纂・発行するなど、数値目標に掲げた「知的財産の出願・保護件数」が目標値を上回っており、「高い知的財産力を活かした企業支援の実施」について年度計画を上回って実施していると判断した。
- ⑤ 各支援機関と連携し、インキュベーション施設入居企業への情報提供、意見交換及びコーディネーターによる支援等に取り組むとともに、積極的な施設のPRにより平成31年度当初の入居率100%の達成につながっており、「インキュベーション施設を活用した起業・第二創業の支援」について年度計画を上回って実施していると判断した。

以上5項目が計画を上回って実施しているほか、他の1項目も中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

### <小項目評価の集計結果>

6項目全てが小項目評価のⅢ又はⅣに該当し、Ⅲ～Ⅴの項目の割合は6/6となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	V 計画を大幅 に上回って 実施してい る	IV 計画を上回 って実施し ている	III 計画を順調 に実施して いる	II 計画を十分 に実施でき ていない	I 計画を大幅 に下回って いる
中小企業の成長を支えるための多様な技術分野における技術支援(1～6)	6	0	5	1	0	0
合計	6	0	5	1	0	0

### <小項目評価に当たって考慮した事項>

小項目評価がⅣ（計画を上回って実施）の項目は次のとおりであった。

（ ）は小項目評価の番号

- ① 多様なニーズに応える技術相談の充実（1）【Ⅳ】
  - ・来所、電話、インターネット、展示会・セミナー会場等での相談を実施し、法人全体で90,768件の技術相談を実施した。
  - ・技術相談満足度に関する利用者アンケートを2回実施し、数値目標に掲げた「技術相談満足度」は、平均98.0%となり、目標値を上回った。
  - ・試験機制御用パソコンの不具合など、利用者アンケートで指摘のあった内容に速やかに対応し、利用者サービスの向上に取り組んだ。
- ② 国際競争力の強化に向けた中小企業の海外展開支援（3）【Ⅳ】
  - ・和泉センターにおいて、EMC技術開発支援センター（電波暗室）の運用を開始し、平成31年1月22日付けでV L A CからI S O / I E C 17025の認定を取得した。
  - ・森之宮センターにおいて、平成30年10月9日付けでN I T E認定センターによるJ N L A登録事業者登録が更新され、新規J N L A試験を2件実施した。
  - ・りそな銀行グループ、JETRO、I N P I Tと連携し、「中小企業の初めての海外展開—技術と知財に光を当てて—」と題したセミナーを4回開催した。
- ③ 多様な企業ニーズに応える受託研究の推進（4）【Ⅳ】
  - ・基盤研究の成果や蓄えた技術ノウハウを活用して受託研究を633件実施し、依頼者の課題を解決した。また、簡易な手続により企業の課題を解決する簡易受託研究を335件実施し、数値目標に掲げた「受託研究及び簡易受託研究実施件数」は968件となり、目標値を上回る125%の達成率となった。
  - ・受託研究のうち154件で企業研究員を受け入れ、企業への技術移転の迅速化、人材育成等を実施した。

④ 高い知的財産力を活かした企業支援の実施（５）【Ⅳ】

- 外部講師による「記載要件を踏まえた特許の上手な取り方～基礎から仮想事例検討まで～」と題した特許の審査基準に関する研修会を開催し、職員の知財マインドの向上に取り組んだ。
- 特許管理システムを活用し、法人保有知財１９件を掲載した知財シーズ集を編纂・発行するとともに、数値目標に掲げた「知的財産の出願・保護件数」は４０件となり、目標値を上回る１２１％の達成率となった。

⑤ インキュベーション施設を活用した起業・第二創業の支援（６）【Ⅳ】

- 経営支援課、ものづくり支援課（MOB I O）、よろず支援拠点などの大阪府支援機関等と連携し、入居企業への各種支援業務の情報提供を行うとともに、府と共同で I N P I T 見学会を開催した。また、個別相談会を開催し、入居企業８社と意見交換を行った。
- インキュベーションコーディネーターが入居企業を訪問するなどして、経営相談や経営状況の把握に取り組むとともに、府、大阪市、支援機関等と連携してインキュベーション施設の P R に積極的に取り組み、平成 3 1 年度当初の入居率 1 0 0 % を達成した。

**（２） 評価に当たっての意見、指摘等**

- 年度計画を順調に実施していると認められる。

### 3-1-2 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目（高度化する企業の技術・製品開発に伴走する企業支援研究の推進等）

#### (1) 評価結果と判断理由

○ 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

- ① 技術開発から製品開発まで支援する高度受託研究と共同研究を着実に実施し、プレ研究制度の活用による利用者の利便向上を図るとともに、企業との契約交渉を粘り強く行って契約に結びつけるなどし、数値目標に掲げた「企業支援研究実施件数」が目標値を大幅に上回っており、「企業支援研究（高度受託研究、共同研究）の実施等」について年度計画を大幅に上回って実施していると判断した。
- ② 法人の有する人材、研究開発力等を最大限に活用して行う基盤研究、基盤研究で培った成果を展開して行う発展研究及び新産業の創出を目指すプロジェクト研究に取り組んだ。また、大学、研究機関等との共同研究を積極的に進め、数値目標に掲げた「競争的外部資金研究実施件数」が目標値を上回った。さらに、「NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）事業」に公設試験研究機関で唯一の参画や融合研究が経済産業省の「戦略的基盤技術高度化支援事業」などの大型プロジェクトに採択されるなど、「多様な企業成長を支える基盤研究の推進等」について年度計画を大幅に上回って実施していると判断した。

以上2項目全てが計画を大幅に上回って実施しており、中期計画を着実に進捗していることに加え、「NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）事業」に公設試験研究機関で唯一参画したことを特筆すべき成果として高く評価し、大項目評価としては、S評価（「特筆すべき進捗状況」）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

#### <小項目評価の集計結果>

2項目全てが小項目評価のVに該当し、Ⅲ～Vの項目の割合は2/2となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	V 計画を大幅 に上回って 実施してい る	IV 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	I 計画を大幅 に下回って いる
高度化する企業の技術開発・製品開発に伴走する企業支援研究等の推進(7)	1	1	0	0	0	0
大阪産業の持続的発展のための研究開発の戦略的展開(8)	1	1	0	0	0	0
合計	2	2	0	0	0	0

## ＜小項目評価に当たって考慮した事項＞

小項目評価がV（計画を大幅に上回って実施）の項目は次のとおりであった。

（ ）は小項目評価の番号

- ① 企業支援研究（高度受託研究、共同研究）の実施、公募型共同開発事業の実施及びプレ研究制度の運用（7）【V】
  - ・技術開発から製品開発まで支援する企業伴走型研究として、高度受託研究及び共同研究を実施し、数値目標に掲げた「企業支援研究実施件数」は、高度受託研究27件、共同研究37件、合計64件となり、目標値を大幅に上回る133%の達成率となった。
  - ・法人の有する技術シーズを活用して行う公募型共同開発事業への企業からの応募がなく新たな事業を実施できなかったが、平成28年度及び29年度の採択案件について、進捗状況報告会を開催した。
  - ・本格的な研究開始前に課題解決の可能性を検証し、研究実施の有効性を確認する「プレ研究制度」の活用件数は38件となり、数値目標に掲げた「企業支援研究の実施件数」64件の実績のうち27件（契約額で約989万円）を占めるなど効果を上げた。
  
- ② 多様な企業成長を支える基盤研究の推進、実用化・技術移転を目指す発展研究の推進及び大阪発の新産業の創出を目指すプロジェクト研究の推進（8）【V】
  - ・法人の有する人材、研究開発力等を最大限に活用し、78件の基盤研究や大学等と連携した102件の共同研究を実施した。また、基盤研究で培った成果の企業への技術移転を目指し、新規、継続を合わせて10件の発展研究を実施した。
  - ・新産業の創出を目指して10件のプロジェクト研究を実施し、「NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）事業」に公設試験研究機関で唯一参画するとともに、融合研究チームで両センターの共同テーマを選定し、「経済産業省戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）」などを実施した。
  - ・数値目標に掲げた「競争的外部資金研究実施件数」は、「文部科学省科学研究費補助金（科研費）」60件、「経済産業省戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）」3件を含めたその他競争的資金48件、合計108件となり、目標値を上回る130%の達成率となった。

### （2） 評価に当たっての意見、指摘等

- 「NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）事業」に公設試験研究機関で唯一参画したことを「特筆すべき進捗状況」として高く評価する。
- 公募型共同開発事業を計画的に行うため、課題の整理や対策を講じるなど、取組の改善等を図ること。

### 3-1-3 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目（大阪産業を支える技術人材の育成等）

#### (1) 評価結果と判断理由

○ 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

① 企業が求める技術人材の育成のため、レディメード型技術者研修やオーダーメイド型技術者研修、大学・業界団体等と連携した人材の育成、5軸制御マシニングセンターの普及に向けた取組などにより、数値目標に掲げた「人材育成延べ人数」が目標値を大幅に上回っており、「企業が求める技術人材の育成、関係機関との連携による次世代の産業人材等の育成」について年度計画を大幅に上回って実施していると判断した。

② 申請手順のワンストップ化を推進するため、両センターの共通利用者カードの発行や電話内線化により、利用者サービスの更なる向上が図られた。また、医療健康機器開発研究会の活動を推進した結果、活動の継続を求める企業の声を受けて「（一社）医療健康機器開発協会」の設立支援に取り組んだ。さらに、研究シーズ・成果の見える化、研究成果の論文投稿等の積極的な情報発信などの取組により、数値目標に掲げた「製品化成果事例件数」、「技術情報発信件数」及び「審査の上掲載された研究成果発信件数」が目標値を上回るなどしており、「一気通貫支援の充実強化に向けた産学官連携の推進、ワンストップ化、スピード化による顧客サービスの向上」等について年度計画を上回って実施していると判断した。

③ 企業経営層との情報交流、業界団体、行政機関、金融機関等との連携に取り組み、池田泉州銀行と連携した先進技術スタートアッププログラムにおいて新規研究開発プロジェクトを立ち上げた。また、G20大阪サミットの開催を控え、大阪府警察本部と共催でサイバーセキュリティセミナーを積極的に開催し、中小企業への対策の啓発に取り組んだことなどにより、「ネットワークの構築による企業支援の強化」について年度計画を上回って実施していると判断した。

以上3項目全てが計画を上回って実施しており、中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり

#### <小項目評価の集計結果>

3項目全てが小項目評価のⅣ又はⅤに該当し、Ⅲ～Ⅴの項目の割合は3/3となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	Ⅴ 計画を大幅 に上回って 実施してい る	Ⅳ 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	Ⅰ 計画を大幅 に下回って いる
大阪産業を支える技術 人材の育成（9）	1	1	0	0	0	0
顧客満足度を高める事 業化までの一気通貫の 企業支援（10、11）	2	0	2	0	0	0
合計	3	1	2	0	0	0

## ＜小項目評価に当たって考慮した事項＞

小項目評価がV（計画を大幅に上回って実施）の項目は次のとおりであった。

（ ）は小項目評価の番号

### ① 企業が求める技術人材の育成、関係機関との連携による

#### 次世代の産業人材等の育成（9）【V】

- 企業が求める技術人材の育成のため、レディメード型研修を5回、オーダーメード型研修を29回実施した。また、大学、業界団体と連携して人材育成に取り組み、5軸制御マシニングセンターの普及に向けたセミナーや研修会等を開催して中小企業への技術普及やレベルアップに取り組んだことなどにより、数値目標に掲げた「人材育成延べ人数」は744人となり、目標値を大幅に上回る181%の達成率となった。

小項目評価がIV（計画を上回って実施）の項目は次のとおりであった。

（ ）は小項目評価の番号

### ② 一気通貫支援の充実強化に向けた産学官連携の推進、ワンストップ化、スピード化による顧客サービスの向上及び企業支援のための情報収集・分析と積極的な情報発信（10）【IV】

- 医療機器研究開発研究会において、「呼吸訓練機」、「点滴センサー」、「ホルマリン容器」の3つのコンソーシアムなど計36回活動し、特許出願1件、試作品作製2件等の実績につながった。また、本取組の企業からの継続要望を受けて、有志企業による「（一社）医療健康機器開発協会」設立に向けた活動を支援した。
- 和泉及び森之宮センター間の電話を内線化し、利用者のワンストップによる電話対応を開始するとともに、両センターの顧客情報の共有化を図るため、森之宮センターで利用者登録制度の運用を開始し、共通の利用者カードを発行した。
- 和泉及び森之宮センターが連携して成果事例集「ええもん」を11月に発刊し、33件の製品化事例を掲載した。

### ③ ネットワークの構築による企業支援の強化（11）【IV】

- 池田泉州銀行と連携して「先進技術スタートアッププログラム」に取り組み、4件の新規研究開発プロジェクトを立ち上げた。また、大阪商工会議所等と連携して「ORIST技術シーズ・成果発表会」の開催、大阪グリーンナノコンソーシアム主催の「グリーンナノフォーラム」を2回開催した。
- 大阪府警察本部と連携して情報交換連絡会を5回実施するとともに、サイバーセキュリティセミナーを府内全域で10回開催し、中小企業への対策の啓発に取り組んだ。
- 大阪府立大学及び大阪市立大学との包括連携協定に基づき、包括連携推進協議会等の開催や人材育成、共同研究等の連携事業に取り組んだ。
- 和泉及び森之宮センターにおいて、小中学生向けの科学体験教室事業や見学会等を開催し、科学技術への興味や近隣住民への研究所の理解を深めることなどに取り組んだ。

## (2) 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に実施していると認められる。

### 3-2 「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目評価

#### (1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

「自主的・自律的な組織運営」において、平成31年3月に森之宮センターで利用者登録制度の運用を開始してサービスの改善を図り、「業務運営の継続的向上のための取組」において、TV会議システムを活用し、職員研修をセンター間で中継して行うなどの業務の効率化を図り、「優れた職員の確保と能力向上に向けた取組」において、6名の研究職の採用を決定するとともに、「情報システム化の推進」などに計画的に取り組んだ。

以上4項目全てが計画を順調に実施しており、中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価については、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

#### <小項目評価の集計結果>

4項目全てが小項目評価のⅢに該当し、Ⅲ～Ⅴの項目の割合は4/4となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	V 計画を大幅 に上回って 実施してい る	IV 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	I 計画を大幅 に下回って いる
自主的・自律的な組織 運営(12)	1	0	0	1	0	0
業務運営の継続的向上 のための取組(13)	1	0	0	1	0	0
優れた職員の確保と能 力向上に向けた取組 (14)	1	0	0	1	0	0
情報システム化の推進 (15)	1	0	0	1	0	0
合計	4	0	0	4	0	0

#### (2) 評価に当たっての意見、指摘等

- 法人経営や顧客サービスの向上のため、企業支援に関する顧客情報データベース登録内容の更なる充実を図ること。

### 3-3 「財務内容の改善及び効率化」及び

### 3-4 「その他業務運営に関する重要事項」に関する大項目評価

#### (1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

「事業収入の確保」、「財務基盤の強化と効率的な予算執行」、「施設の計画的な整備及び活用等」及び「利用者の安全確保と職員の安全衛生管理」に計画的に取り組み、「危機管理対策の推進・BCPの策定」において、和泉センターBCP（事業継続計画）を策定して職員への机上教育訓練を実施し、「社会的責任の遂行」において、個人情報保護の適正管理研修や地方独立行政法人法の改正に伴う変更後の業務方法書に基づき、法人の基本理念、行動指針を制定するなどに取り組んだ。

以上5項目全てが計画を順調に実施しており、中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価については、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

#### <小項目評価の集計結果>

5項目全てが小項目評価のⅢに該当し、Ⅲ～Ⅴの項目の割合は5/5となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	V 計画を大幅 に上回って 実施してい る	IV 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	I 計画を大幅 に下回って いる
事業収入の確保、 財政基盤の強化と効率的な 予算執行（16）	1	0	0	1	0	0
施設の計画的な整備及 び活用等（17）	1	0	0	1	0	0
利用者の安全確保と職員 の安全衛生管理 （18）	1	0	0	1	0	0
危機管理対策の推進・ BCPの策定（19）	1	0	0	1	0	0
社会的責任の遂行 （20）	1	0	0	1	0	0
合計	5	0	0	5	0	0

#### (2) 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に実施していると認められる。